

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 53人

② 数学 53人

5 留意事項

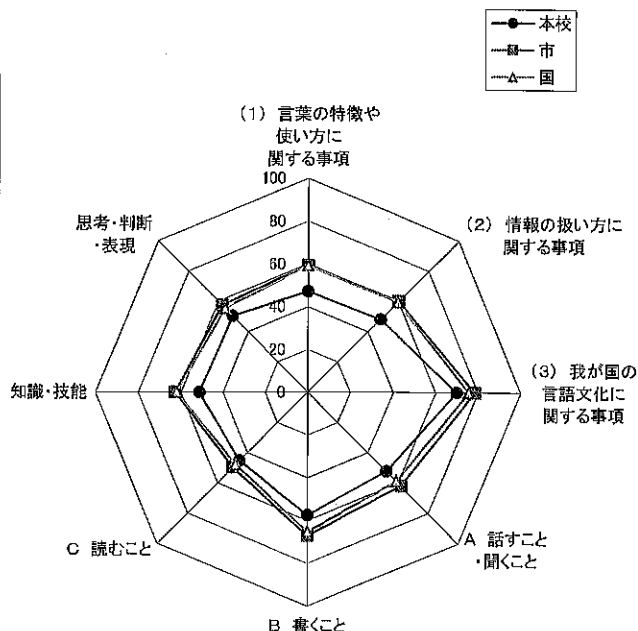
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	47.2	59.3	59.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	48.1	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	69.8	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	52.2	61.8	58.8
	B 書くこと	57.5	67.2	65.3
観点	C 読むこと	45.3	49.7	47.9
	知識・技能	51.3	62.7	62.0
	思考・判断・表現	50.3	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

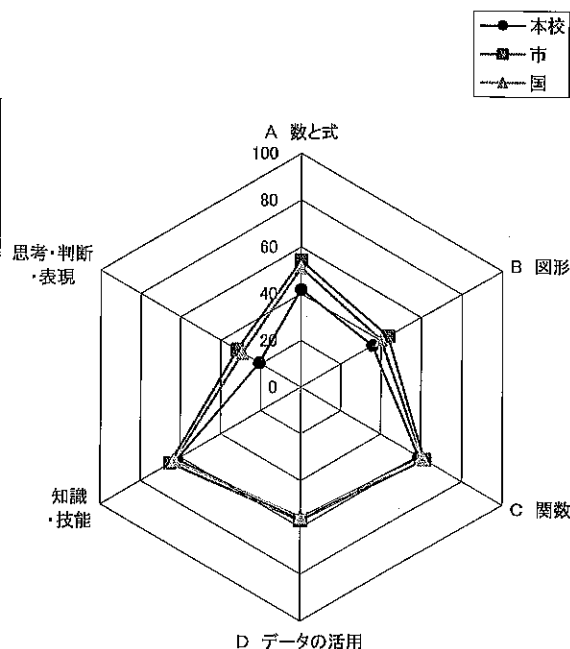
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	正答率は、市平均を12.1ポイント、全国平均を12ポイント下回った。 ●文の成分の順序や照応について理解しているかどうかを見る問題の正答率は全国及び県平均を約11ポイント下回った。 ●漢字の書き取りでは全国及び県平均を約13ポイント下回っており、無回答率も約2割いた。	・文中の単語の位置について理解できるよう、書き手の意図が読み手に正しく伝わる文章表現の指導に力を入れたい。 ・漢字については、既習漢字に含めて正確に書くことができるよう、授業での漢字テストを今後も継続していく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	正答率は、市平均を11.9ポイント、全国平均を11.5ポイント下回った。 ●情報と情報との関係について理解しているかどうかを見る2つの問題の正答率は、意見と根拠などは約8ポイント、具体と抽象などは約14ポイント全国及び県平均を下回った。	・複数のデータから情報を正しく読み取ったり、情報と情報の関連を考えさせたりする学習を意図的に取り入れていく。 ・自分の意見を書いたり、根拠を明確にして意見を発表したりする学習を積み重ね、意見文などの作文指導も積み重ねていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市平均を8.6ポイント、全国平均を5.8ポイント下回った。 ●行書の特徴を理解しているかどうかを見る問題の正答率は全国及び県平均を約5ポイント下回った。	・楷書と行書の違いを理解し、行書の特徴を理解して書けるよう指導を継続していく。 ・知識のみならず実践を通して理解が深まるよう、書写の指導を充実させていく。
A 話すこと・聞くこと	正答率は、市平均を9.6ポイント、全国平均を6.6ポイント下回った。 ○資料を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかを見る問題の正答率は全国及び県平均を1.3ポイント上回った。 ●話し合いの話題や発言を踏まえて自分の考えを書く問題の正答率は全国平均を14.5ポイント、県平均を17.2ポイント下回った。	・「話題を捉える」「他者の発言の趣旨を捉える」「捉えた内容を踏まえた上で自分の考えをまとめる」ことを意識できるよう、言語活動を充実させていく。 ・話の内容を聞き取ったり、自分の考えを分かりやすく伝えたりする場を意図的に設け、どのように内容を捉えたらよいのか、捉えた内容をどのようにまとめたらいかなど、理解できるよう繰り返し指導をしていく。
B 書くこと	正答率は、市平均を9.7ポイント、全国平均を7.8ポイント下回った。 ●集めた材料を整理し伝えたいことを明確にする問題では約6ポイント、や自分の考えを工夫した表現で伝える問題では約12ポイント、全国及び県平均の正答率を下回った。	・設問の条件を満たした文章を書くことができるよう、文字数の少ない作文、ひな形を利用した作文の指導を行っていく。 ・表現の効果を考えて描写し、自分の考えが伝わる文章になるよう、指導を工夫していく。
C 読むこと	正答率は、市平均を4.4ポイント、全国平均を2.6ポイント下回った。 ○文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する問題の正答率は全国及び県平均を約6ポイント上回った。 ●目的に応じて必要な情報を選び文章に要約する問題の正答率は全国及び県平均を約11ポイント下回っている。	・段落ごとに読むようにし、接続語や指示語、文末表現などにその都度指導をするとともに、具体例と主張を関連付け、段落のつながりを整理したり、目的や事実を明らかにして条件に応じた表現で文章表現できるよう指導を工夫していく。 ・必要な情報を適切に取り上げて書く学習を繰り返し指導していく。

宇都宮市立田原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	41.9	54.2	51.1
	B 図形	35.8	43.6	40.3
	C 関数	59.0	61.7	60.7
	D データの活用	57.1	57.1	55.5
観点	知識・技能	61.6	65.2	63.1
	思考・判断・表現	20.8	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	正答率は、市平均を12.3ポイント、全国平均を9.2ポイント下回った。 ○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかを見る問題の正答率は全国及び県平均を約1ポイント上回った。 ●連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかを見る問題、事柄が成り立つ理由や数学的表現を用いて説明する問題の正答率は、全国及び県平均を15ポイント以上下回った。	・問題演習を充実させ、基礎・基本の定着を図るとともに、文字を使って式を表すこと、文字式が表す事象を言葉で表現すること多く取り入れ、自分の思考を表現する活動に力を入れていく。 ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題を解く学習を多く取り入れていく。
B 図形	正答率は、市平均を7.8ポイント、全国平均を4.5ポイント下回った。 ●回転移動について理解しているかどうかを見る問題では約6ポイント、事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかを見る問題では約7ポイント、全国及び県平均の正答率を下回った。	・図形を自在に動かせるアプリケーション等を活用し、生徒が自ら様々な図形の移動を体験させたり、根拠をもとに角度を求めたりする学習活動を取り入れ、思考力を高める指導を充実させていく。 ・基礎的な知識を繰り返し確認し、問題解決の過程や結果から新たな性質を見出したり、必要な須恵の性質を読み取ったことを言語で表現したりする力を育ていく。
C 関数	正答率は、市平均を2.7ポイント、全国平均を1.7ポイント下回った。 ○一次関数について式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかを見る問題では約1ポイント、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかを見る問題では約4ポイント、全国及び県平均の正答率を上回った。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを見る問題の正答率は全国及び県平均を約ポイント下回った。	・身近な生活の事象関数として捉える活動、関数の考え方をを用いて解決する活動を取り入れ、知識技能の定着や思考力、判断力の向上につながるよう指導を工夫していく。 ・基礎的な知識を確認する時間を設け、基礎・基本を繰り返し指導するとともに、問題解決の方法を関数の考え方をを用いて説明できよう指導していく。
D データの活用	正答率は、市平均と同等であったが、全国平均を1.6ポイント上回った。 ○複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかを見る問題の正答率は、全国及び県平均を約8ポイント上回った。 ●複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを見る問題の正答率は、全国及び県平均を約6ポイント下回った。	・事象を説明することに関して苦手意識が見られるため、自分の言葉で説明する活動を重点的に行っていく。 ・データの分析における基本的な用語とその意味を確認するなど知識を定着させるとともに、複数の集団のデータ分布を使った様々な問題を解く場を設け、比較して読み取ったり、数学的表現を用いて理由を説明したりできる力を身に付けさせていく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に肯定的な回答した生徒は92.6%で、県平均を1.0ポイント下回ったが全国平均を2.2ポイント上回っており、教職員と良好な人間関係のもと、生徒が学校生活を送れていることから、今後も生徒一人一人に対し、努力を認め、達成状況を褒めて次に向けて励ましながら、充実した学校生活を送れるよう支援していきたい。

○「友達関係に満足していますか」の質問では90.7%、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問では94.4%肯定的回答をした生徒がおり、友達や教職員、家族との良好な人間関係が生徒自身にとって満足した生活に結びついているのではないかと考える。

○「学校の授業以外に普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか」の質問では、平日1時間以上していると回答した生徒は81.5%、休日1時間以上していると回答した生徒は74.2%であり、平日については全国及び県平均を下回ったが、休日については全国及び県平均を上回っており、概ね家庭学習の習慣は身に付いてきている。

○「総合的な学習の時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問に肯定的回答をした生徒は92.5%で、全国平均を10.3ポイント、県平均を5.1ポイント上回っている。また、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問に肯定的回答をした生徒は96.3%おり、全国平均を4.6ポイント、県平均を2.1ポイント上回っている。このことから、互いの考えを尊重する学級の雰囲気の中、発表する力も備わってきており、今後も継続して互いに高め合う集団づくりを進めていきたい。

●「普段1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の質問では、平日2時間以上していると回答した生徒は55.5%、休日2時間以上していると回答した生徒は59.3%おり、平日・休日とも全国及び県平均を上回っている。また、「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか」の質問では、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている」生徒が92.6%と一番多かった。平日・休日とも家庭学習の習慣が身に付いている結果が出ていることから、就寝時間が遅くなっているのではないかと懸念する。また、オンラインゲームやSNSトラブルに巻き込まれないよう、注視していく必要もあることから、生徒の健全な生活に向け、学校と家庭の連携を密にしていきたい。

●「タブレットなどのICT機器の活用」に関する全ての質問において、全国及び県平均を下回っている。各教科で必要に応じてICT機器を活用した学習活動を行い、タブレット端末の使用頻度も高くなってきている。今後も教職員が情報共有しながら、ICT機器の効果的な活用をしていきたい。

●「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問の肯定的回答をした生徒は70.3%で約3割の生徒ができていない結果となり、全国平均を7.6ポイント、県平均を9.8ポイント下回っている。今後は、生徒が1時間の授業内容を学びの過程を分かりやすく確認したり、生徒一人一人の変容を教師が見取ったりできる場として、振り返り活動を重視していきたい。

●「文章を書く」ことに関する質問では、「自分の考えが伝わるように表現の効果を考えて」といった表現力に自信がない様子が見られた。自分の考えを発表する力は身に付いてきていることから、「書く」力の育成に努めていきたい。

宇都宮市立田原中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力を育成するとともに、目標をもち、自ら学ぶ意欲を育む指導の充実	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・総合的な学習の時間や道徳の授業において、互いの考えを尊重する学級の雰囲気の中、対話を通して学び合いや協働的な活動では、自分の考えを発表する力が備わってきた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを文章で書く力 ・書いたり、伝え合ったりする言語による振り返り	・既習事項を生かすめあての提示と振り返りを文章で書かせる活動の計画的な実施	・「何ができるようになったか」伝え合ったり、書いたりするなど言語による振り返りの充実 ・根拠をもとに話せたり、自分の考えを伝えたりする内容を再構築させるための話し合い後に取り組む自分の考えを書く時間の確保